

黒水 則顯（くろみず・のりあき）先生

株式会社 WOWOW 常務取締役

1978 年 上智大学文学部新聞学科卒業後
株式会社ラジオ関東
(現:株式会社アール・エフ・ラジオ日本) 入社
記者、営業を担当
1990 年 3 月 日本衛星放送株式会社 (現:株式会社 WOWOW) 入社
入社後 編成、映画、スポーツを担当
2001 年 7 月 執行役員プロデュース局長
2004 年 6 月 取締役 経営企画局長
2005 年 6 月 常務取締役 経営企画担当をはじめ
放送・事業総括、編成・制作・技術担当等を歴任
2011 年 6 月よりマーケティング、カスタマーリレーション営業担当



[参考文献] 「日本企業復活へのHTML5戦略」 小林雅一著 光文社刊

《講義概要》

株式会社WOWOWの常務取締役として、メディア産業の第一線で活躍する黒水則顯氏が、放送業界の現状と今後の動向について講義を行った。

講義ではまず、放送業界の変遷を振り返り、技術革新とライフスタイルの変化に伴い放送のあり方が大きく変化し、完全デジタル化によって「スクリーン・サービスの競合時代」に入ったことを示した。また、法制度改正や新しい映像配信サービスについても具体的に説明した。

続いて、放送を取り巻く環境の変化により、テレビ局にとってオリジナルのコンテンツを制作することと、それをどのようにビジネス展開していくかということが最も重要なポイントであると言及。多目的なコンテンツ制作や映画製作への投資、番組の世界流通など、コンテンツに傾注した新たなビジネス展開が求められていることを示した。

テレビ視聴環境の変化に伴い、新しい領域での競争が激化する時代において、SNSやインターネットとの融合、TV以外のスクリーンでの放送など、デジタル化から一歩踏み込んだ新しいステージへの展開が急務であり、HTML5の標準化を例に、その取り組みを紹介した。学生は実態の見えにくい放送業界の構図やメディアビジネスの現状を学び、今後のエンタテインメントビジネスのあり方について具体的に考えるきっかけとなった。

《受講生の感想》

●本日の講義は日本の現状と global standard との視点を組み合わせたもので、どういふ変化がどう対応するためなのかという点が非常に勉強になりました。個人的デジタルへの移行によって 60 年ぶりに通信と放送の法制が変わった点やレイヤー議論が興味深いと感じました。また、「国策的な押しがないとエンタテインメント産業は育たない」という言葉が印象に残りました。やはり global に対応するにあたり、国家戦略の必要性を感じました。立命館大学・政策科学部・3 回生

●コンテンツサービスにおいて現在様々な工夫を求められていると思います。各局が現在勝っていくためにネットや携帯端末を使った工夫を考案、行っているということが分かりました。ただ消費するだけでなく、どういふ工夫がなされているのか、どうすればもっと良くなるのか、主体的に考えていきたいと思いました。立命館大学・映像学部・2 回生

●競争に勝ち抜いていくために必要な要素がオリジナルであると理解できた。これはこの業界だけでなく、全ての競争においてそうであると思う。他と一緒にでは生き残れないということを強く感じた。取って代わるこののできる存在ではいけないということであると思う。立命館大学・産業社会学部・2 回生

●有料チャンネルが身近になるにつれて、テレビを受動的に観る時代から、能動的にテレビを観る時代へと本格的にシフトしているように感じました。黒水先生が何度もおっしゃっていたように、テレビがパソコンのような役割を果たすような専門性を持ってきていると実感しました。番組制作の目的がテレビだけでなく、そのさらに先を見据えたものになってきており、これからますます可能性が広がると思いました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●テレビ放送の歴史や今現在ある放送サービスの紹介など様々なテレビを取り巻く環境の話が聞けて勉強になりました。また、テレビは観るだけでなく、ネットや SNS との共存により、使用できる幅が広がっているのだと感じました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

●放送業界の構造的な問題や今後のビジネス的な展望など、映像関係の就職を考えている私にとってとても貴重なお話でした。その中でも放送業界にとっての映画のお話しが参考になりました。今後の放送キー局はコンテンツファクトリーとしての創り手の側面に力を入れていくことが重要だと思いました。

立命館大学・映像学部・4 回生

